

2023年3月期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）	P.2
2. 業績のポイント	P.3
3. 業績の状況	P.4
4. 主要製品の状況	P.5
5. 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況（連結）	P.6
6. 開発品一覧	P.7～9
7. 2024年3月期 連結業績予想（連結）	P.10
【参考資料】	
8. 損益計算書の概要（連結）	P.12～13
9. 貸借対照表の概要（連結）	P.14
10. 主な業績項目の推移（連結）	P.15
11. 旧杏林製薬資料	P.16～19

2023年5月11日
杏林製薬株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2023年3月期 決算概観（連結）

(単位：百万円)	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	対前期 (%)	24年3月期 (予想)	対前期 (%)
売上高	109,983	102,904	105,534	113,270	+7.3	116,200	+2.6
営業利益	7,503	5,786	5,007	5,123	+2.3	6,000	+17.1
経常利益	8,175	6,447	5,569	5,827	+4.6	6,500	+11.5
親会社株主に帰属する当期純利益	6,149	6,130	3,932	4,723	+20.1	4,900	+3.7
1株当たりの当期純利益（円）	107.35円	106.99円	68.62円	82.44円	+20.1	85.51円	+3.7
総資産	171,160	167,126	171,924	176,045	+2.4	—	—
純資産	122,710	124,661	124,507	125,461	+0.8	—	—

23年3月期 連結業績（実績）

【売上高】 薬価改定（旧杏林製薬8%台）や新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、積極的な製品普及の拡大に努めたことにより、主力製品である「ベオーバ」、「デザレックス」等の新薬が伸長し、新医薬品等（国内）は前期を上回る実績となりました。また後発医薬品の売り上げも増加し、全体の売上高は1,132億70百万円と前期比77億35百万円の増収となりました。

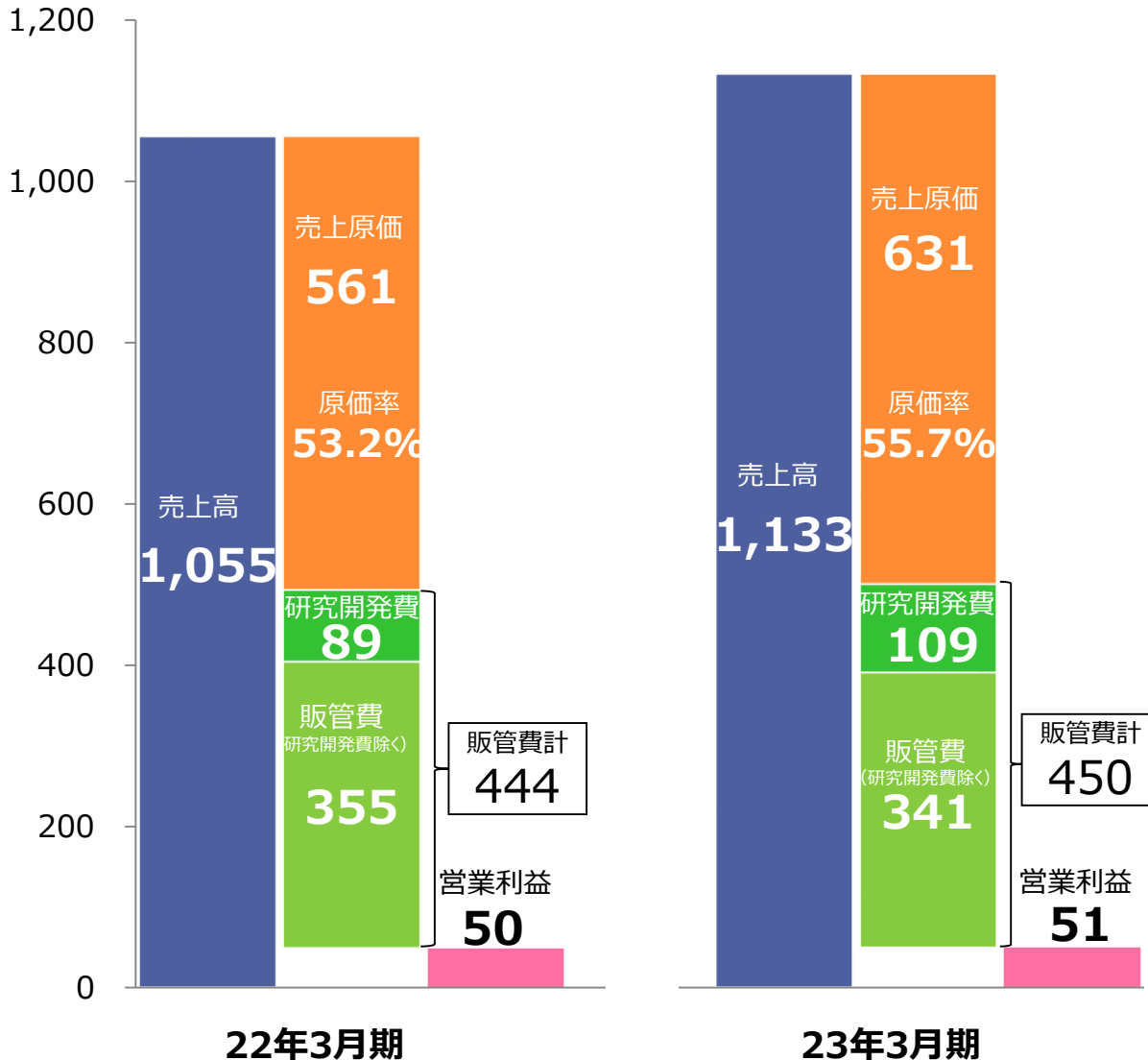
【利益】 薬価改定等の影響により売上原価率が上昇したものの、売上拡大により売上総利益は501億67百万円と前期に対して7億26百万円増加しました。他方、販売費及び一般管理費は、研究開発費が20億05百万円増加したものの、前年に計上した導入品に関わる契約一時金の反動減、コスト削減の取り組み等により、6億10百万円の増加にとどまりました。その結果、営業利益は51億23百万円と前期に対して1億15百万円の増益となりました。
親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益を19億79百万円計上する一方、特別損失を9億00百万円計上した結果、47億23百万円となりました。

24年3月期 連結業績（予想）

売上高は、新医薬品等（国内）については、薬価改定の影響はあるものの、主力製品である「ベオーバ」、「リフヌア」、「ラスビック」等の伸長により、売り上げ増加が予想されます。後発医薬品については、主要製品及び2023年度追補収載品の売り上げ増加を見込むものの、オーソライズド・ジェネリック（AG）の売り上げ低下等により減少が予想されます。以上により、全体の売上高は増収を見込みます。利益面では、増収及び原価率の低下により売上総利益の増加が予想され、販売費及び一般管理費の増加を見込むものの、全体として増益となる見通しです。売上高1,162億円（前期比2.6%増）、営業利益60億円（前期比17.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は49億円（前期比3.7%増）を見込みます。

2023年3月期 業績のポイント

(単位：億円)



売上高は増加 (+78億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
 - 新薬の伸長（ベオーバ、デザレックス、ラスビック）
 - 他社導出品の売上増加（ベオーバ）
 - 長期収載品の売上減少
- 後発医薬品の売上増加

売上原価率が上昇 (+2.5ポイント)

【低下要因】

- 新薬の売上増加（ベオーバ、デザレックス等）

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（旧杏林製薬8%台）
- 後発医薬品の売上増加
- 為替の影響

売上総利益は増加 (+7億円)

販管費は増加 (+6億円)

- 研究開発費は増加 (+20億円)
 - 開発パイプラインの進展（マイルストーン等）
- 販管費（研究開発費除く）は減少 (-14億円)
 - 主に販売費、人件費、及び一般経費の減少
 - 一般経費：特許等使用料の減少
 - 前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減等

営業利益は増加 (+1億円)

2023年3月期 業績の状況

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	対前期 (額)
売上高	1,055	1,133	+78
新医薬品等(国内)	697	748	+51
新医薬品(海外)	10	3	-7
後発医薬品	348	382	+34
営業利益	50	51	+1
経常利益	56	58	+2
親会社株主に帰属する 当期純利益	39	47	+8

	(対前期)	(対予想) 2022年5月11日発表
■売上高	1,133億円 (+78)	(+13)
●新医薬品等(国内)	748億円 (+51)	(+3)
	22.3	23.3
・ベオーバ	86 ⇒ 129 (+43)	(-12)
・ラスビック	18 ⇒ 25 (+7)	(-5)
・リフヌア	— ⇒ 2 (+2)	(-3)
・デザレックス	71 ⇒ 85 (+14)	(+5)
・フルティフォーム	126 ⇒ 120 (-6)	(0)
・ペンタサ	140 ⇒ 128 (-12)	(+3)
・キプレス	84 ⇒ 66 (-18)	(-2)
・ムコダイン	35 ⇒ 35 (0)	(+6)
・ナゾネックス	24 ⇒ 25 (+1)	(+7)
・ウリトス	13 ⇒ 7 (-6)	(0)
●新医薬品(海外)	3億円 (-7)	(-4)
	製品の導出に関わる契約一時金の収入減	
●後発医薬品	382億円 (+34)	(+15)
	キプレスのAG及びナゾネックスのAG等の売上増加、2022年度追補収載品の売上寄与	
■営業利益	51億円 (+1)	(-4)
●原価率：55.7% (前期：53.2%)	【低下要因】新薬の売上増加（ベオーバ、デザレックス等） 【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上増加、為替の影響	
●研究開発費：109億円 (前期：89億円)	開発パイプラインの進展（マイルストーン等）	
●販管費(研究開発費除く)：341億円 (前期：355億円)	主に販売費、人件費、及び一般経費（特許等使用料等）の減少 ・前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減等	
■親会社株主に帰属する 当期純利益	47億円 (+8)	(+2)
	主な特別利益：西日本配送センターの火災に関わる保険差益8億81百万円及び 受取損害賠償金4億01百万円、投資有価証券売却益6億85百万円 主な特別損失：ActivX社の解散に関わる減損損失1億10百万円及び 関係会社整理損失6億05百万円	

2023年3月期 主要製品の状況

(単位：億円)		19年3月期 (実績)	20年3月期 (実績)	21年3月期 (実績)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	対前期 (額)	対前期 (%)	24年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	7	43	73	86	129	+43	+49.8	189
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	—	11	9	18	25	+7	+35.0	32
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	—	—	—	—	2	+2	—	13
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	37	26	57	71	85	+14	+20.6	89
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	131	146	133	126	120	-6	-4.8	114
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	135	133	128	140	128	-12	-8.4	118
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	139	118	83	84	66	-18	-21.7	53
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	68	58	33	35	35	0	+1.5	30
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	128	60	28	24	25	+1	+4.1	12
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	66	58	23	13	7	-6	-44.2	2
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	22	24	21	21	20	-1	-2.4	19
ルピスタ (環境除菌・洗浄剤)	13	15	20	21	21	0	-0.7	21	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	119	115	108	122	133	+11	+9.5	110
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	—	28	38	36	47	+11	+28.5	34
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	—	—	7	8	7	-1	-9.9	4

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況（連結）

(単位：百万円)	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	対前期 (%)	24年3月期 (予想)
研究開発費	10,790	10,987	9,703	8,897	10,903	+22.5	9,600
設備投資	2,306	3,590	4,307	3,624	5,252	+44.9	5,900
減価償却費	2,940	3,221	3,564	3,714	3,840	+3.4	4,300

設備投資の詳細（実績／予想）

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	24年3月期 (予想)
工場設備	26	42	50
管理・販売設備	4	5	5
研究用設備	6	5	4

開発品一覧① (2023年5月11日現在)

Ph3 ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 (22年9月)	Ph3 (aTyr : 米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 (22年8月)	—	KRP-114VP	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 (21年4月: 英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧② (2023年5月11日現在)

導入品の状況

※前回 (2023年2月6日) からの変更点

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月) 高用量での追加Ph1試験 (終了)

※再度、Ph 1 試験を準備中 (あすか製薬)

導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph3	KRP-203	Priothera (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)

その他：（2023年5月11日現在）

DTxの状況

※前回（2023年2月6日）からの変更点

契約先	開発コード	適応症	備考
サスメド	KRP-DT123	耳鳴※	耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月） 特定臨床研究開始予定（2023年度）※

2024年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)	23年3月期 (実績)	24年3月期 (予想)	対前期 (額)	対前期 (%)
売上高	113,270	116,200	+2,930	+2.6
新医薬品等（国内）	74,770	79,100	+4,330	+5.8
新医薬品（海外）	308	400	+92	+29.6
後発医薬品	38,190	36,600	-1,590	-4.2
営業利益	5,123	6,000	+877	+17.1
経常利益	5,827	6,500	+673	+11.5
親会社株主に帰属する当期純利益	4,723	4,900	+177	+3.7

【参考資料】

損益計算書の概要（連結）－①

(単位：百万円)	22年3月期		23年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前期 (%)	対前期 (額)
売上高	105,534	100.0%	113,270	100.0%	+7.3	+7,735
新医薬品等（国内）	69,725	66.1%	74,770	66.0%	+7.2	+5,045
新医薬品（海外）	1,033	1.0%	308	0.3%	-70.1	-725
後発医薬品	34,775	33.0%	38,190	33.7%	+9.8	+3,415

<連結子会社及び持分法適用会社について>

連結子会社5社： 旧杏林製薬(株)
 Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences, Inc.
 キョーリン リメディオ(株)
 キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

(対前期)

■売上高	113,270百万円	(+7,735)
●新医薬品等（国内）	74,770百万円	(+5,045)
(億円)	22.3	23.3
・ベオーバ	86 ⇒ 129	(+43)
・ラスビック	18 ⇒ 25	(+7)
・リフヌア	— ⇒ 2	(+2)
・デザレックス	71 ⇒ 85	(+14)
・フルティフォーム	126 ⇒ 120	(-6)
・ペンタサ	140 ⇒ 128	(-12)
・キプレス	84 ⇒ 66	(-18)
・ムコダイン	35 ⇒ 35	(0)
・ナゾネックス	24 ⇒ 25	(+1)
・ウリトス	13 ⇒ 7	(-6)
●新医薬品（海外）	308百万円	(-725)
・製品の導出に関わる一時金の収入減		
●後発医薬品	38,190百万円	(+3,415)
・キプレスのAG、ナゾネックスのAG等の売上増加		
・2022年度追補収載品の売上寄与		

損益計算書の概要 (連結) - ②

(単位：百万円)	22年3月期		23年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前期 (%)	対前期 (額)
売上高	105,534	100.0%	113,270	100.0%	+7.3	+7,735
売上原価	56,093	53.2%	63,102	55.7%	+12.5	+7,009
売上総利益	49,441	46.8%	50,167	44.3%	+1.5	+726
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	44,433 (8,897)	42.1% (8.4%)	45,043 (10,903)	39.8% (9.6%)	+1.4 (+22.5)	+610 +2,005
営業利益	5,007	4.7%	5,123	4.5%	+2.3	+115
営業外収益	677	0.6%	799	0.7%	+18.0	+121
営業外費用	115	0.1%	94	0.1%	-18.0	-20
経常利益	5,569	5.3%	5,827	5.1%	+4.6	+258
特別利益	0	0.0%	1,979	1.7%	—	+1,978
特別損失	352	0.3%	900	0.8%	+155.2	+547
税金等調整前 当期純利益	5,216	4.9%	6,906	6.1%	+32.4	+1,689
法人税・住民税 及び事業税	1,630	1.5%	2,462	2.2%	+51.0	+831
法人税等調整額	-346	-0.3%	-279	-0.2%	—	+66
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,932	3.7%	4,723	4.2%	+20.1%	+791

<当期のポイント>

(対前期)

◆売上原価率：55.7% (+2.5ポイント)

【低下要因】

・新薬の売上増加（ベオーバ、デザレックス等）

【上昇要因】

・薬価改定の影響（旧杏林製薬8%台）

・後発医薬品の売上増加

・為替の影響

◆研究開発費率：9.6% (+1.2ポイント)

・109億円（前期：89億円）

開発パイプラインの進展（マイルストーン等）

◆販管費率（研究開発費除く）：30.1%

(-3.6ポイント)

・341億円（前期：355億円）

主に販売費、人件費、及び一般経費（特許等使用料等）の減少

特許等使用料：前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減等

■営業利益 5,123百万円 (+115百万円)

■親会社株主に帰属する当期純利益 4,723百万円 (+791百万円)

・主な特別利益：西日本配送センターの火災に関わる保険差益及び受取損害賠償金、投資有価証券売却益

・主な特別損失：ActivX社の解散に関わる減損損失及び関係会社整理損失

■配当 52円00銭/株（内、中間配当20円/株）

配当性向64.0%

貸借対照表の概要 (連結)

(単位：百万円)	22年3月期末		23年3月期末		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	116,376	67.7%	119,030	67.6%	+2,654
現金及び預金	26,994		19,394		
受取手形、売掛金、及び契約資産	41,676		47,301		
有価証券	500	—	0	—	—
棚卸資産	42,217		48,026		
その他	4,989		4,307		
固定資産	55,547	32.3%	57,014	32.4%	+1,467
有形固定資産	24,334		25,834		
無形固定資産	3,289	—	5,393	—	—
投資その他	27,923		25,785		
資産合計	171,924	100.0%	176,045	100.0%	+4,121
流動負債	32,182	18.7%	34,983	19.9%	+2,801
支払手形及び買掛金	10,896	—	13,762	—	—
その他流動負債	21,286		21,221		
固定負債	15,234	8.9%	15,600	8.9%	+366
負債合計	47,416	27.6%	50,584	28.7%	+3,167
株主資本	120,491	70.1%	122,182	69.4%	+1,690
その他の包括利益累計額	4,016	2.3%	3,278	1.9%	-737
その他有価証券評価差額金	6,268		5,695		
為替換算調整勘定	110	—	340	—	—
退職給付に係る調整累計額	-2,362		-2,756		
純資産合計	124,507	72.4%	125,461	71.3%	+953
負債及び純資産合計	171,924	100.0%	176,045	100.0%	+4,121

<当期のポイント>

(対前期末)

■ 流動資産：2,654百万円増

- ・現金及び預金の減少 (-7,599百万円)
- ・受取手形、売掛金、及び契約資産の増加 (+5,625百万円)
- ・有価証券の減少 (-500百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+5,809百万円)
- ・その他の減少 (-681百万円)

■ 固定資産：1,467百万円増

- ・有形固定資産の増加 (+1,500百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+2,104百万円)
- ・投資その他の減少 (-2,138百万円)

■ 流動負債：2,801百万円増

- ・支払手形及び買掛金の増加 (+2,866百万円)
- ・その他流動負債の減少 (-65百万円)

■ 固定負債：366百万円増

主な業績項目の推移 (連結)

(単位：百万円)	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期 (予想)
売上高	113,620	109,983	102,904	105,534	113,270	116,200
(海外売上)	(830)	(1,490)	(996)	(1,033)	(308)	(400)
売上原価	56,210	52,950	51,276	56,093	63,102	—
(売上原価率)	(49.5%)	(48.1%)	(49.8%)	(53.2%)	(55.7%)	—
販売費及び一般管理費	48,436	49,528	45,841	44,433	45,043	—
(販管费率)	(42.6%)	(45.0%)	(44.5%)	(42.1%)	(39.8%)	—
うち研究開発費	10,790	10,987	9,703	8,897	10,903	9,600
(研究開発费率)	(9.5%)	(10.0%)	(9.4%)	(8.4%)	(9.6%)	(8.3%)
営業利益	8,972	7,503	5,786	5,007	5,123	6,000
(営業利益率)	(7.9%)	(6.8%)	(5.6%)	(4.7%)	(4.5%)	(5.2%)
経常利益	9,438	8,175	6,447	5,569	5,827	6,500
(経常利益率)	(8.3%)	(7.4%)	(6.3%)	(5.3%)	(5.1%)	(5.6%)
当期純利益	6,869	6,149	6,130	3,932	4,723	4,900
(当期純利益率)	(6.0%)	(5.6%)	(6.0%)	(3.7%)	(4.2%)	(4.2%)
一株当たり利益	104.68円	107.35円	106.99円	68.62円	82.44円	85.51円
資本金	700	700	700	700	700	—
総資産	173,034	171,160	167,126	171,924	176,045	—
株主資本	116,744	118,534	120,339	120,491	122,182	—
純資産	123,395	122,710	124,661	124,507	125,461	—
一株当たり純資産	2,154.05円	2,142.07円	2,175.52円	2,172.83円	2,189.43円	—
自己資本利益率	4.8%	5.0%	5.0%	3.2%	3.8%	—
自己資本比率	71.3%	71.7%	74.6%	72.4%	71.3%	—
人員	2,297人	2,271人	2,243人	2,222人	2,138人	—
設備投資	2,306	3,590	4,307	3,624	5,252	5,900
減価償却費	2,940	3,221	3,564	3,714	3,840	4,300

損益計算書の概要：旧杏林製薬－①

(単位：百万円)	22年3月期		23年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前期 (%)	対前期 (額)
売上高	92,010	100.0%	97,526	100.0%	+6.0	+5,516
新医薬品等 (国内)	67,814	73.7%	72,757	74.6%	+7.3	+4,942
新医薬品 (海外)	834	0.9%	112	0.1%	-86.5	-721
後発医薬品	23,361	25.4%	24,656	25.3%	+5.5	+1,295

<当期のポイント>

(対前期)

■売上高 **97,526百万円** (+5,516)

●新医薬品等 (国内) **72,757百万円** (+4,942)

(億円)	22.3	⇒	23.3	
・ベオーバ	86	⇒	129	(+43)
・ラスビック	18	⇒	25	(+7)
・リフヌア	—	⇒	2	(+2)
・デザレックス	71	⇒	85	(+14)
・フルティフォーム	126	⇒	120	(-6)
・ペンタサ	140	⇒	128	(-12)
・キプレス	84	⇒	66	(-18)
・ムコダイン	35	⇒	35	(0)
・ナゾネックス	24	⇒	25	(+1)
・ウリス	13	⇒	7	(-6)

●新医薬品 (海外) **112百万円** (-721)

・製品の導出に関わる一時金の収入減

●後発医薬品 **24,656百万円** (+1,295)

・キプレスのAG、ナゾネックスのAGの売上増加

損益計算書の概要：旧杏林製薬－②

(単位：百万円)	22年3月期		23年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前期 (%)	対前期 (額)
売上高	92,010	100.0%	97,526	100.0%	+6.0	+5,516
売上原価	48,736	53.0%	52,479	53.8%	+7.7	+3,742
売上総利益	43,273	47.0%	45,046	46.2%	+4.1	+1,773
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	40,413 (7,695)	43.9% (8.4%)	40,415 (9,233)	41.4% (9.5%)	+0.0 (+20.0%)	+1 (+1,537)
営業利益	2,859	3.1%	4,631	4.7%	+62.0%	+1,772
営業外収益	978	1.1%	1,158	1.2%	+18.4%	+179
営業外費用	56	0.1%	63	0.1%	+11.8%	+6
経常利益	3,781	4.1%	5,727	5.9%	+51.4%	+1,945
特別利益	0	0.0%	1,710	1.8%	—	+1,710
特別損失	344	0.4%	8	0.0%	-97.4%	-335
税金等調整前 当期純利益	3,437	3.7%	7,429	7.6%	+116.2%	+3,992
法人税・住民税 及び事業税	1,192	1.3%	2,296	2.4%	+92.5%	+1,103
法人税等調整額	-376	-0.4%	-589	-0.6%	—	-213
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,620	2.8%	5,722	5.9%	+118.4%	+3,102

<当期のポイント>

(対前期)

◆売上原価率：53.8% (+0.8ポイント)

【低下要因】

- ・新薬の売上増加（ベオーバ、デザレックス等）

【上昇要因】

- ・薬価改定の影響（8%台）
- ・後発医薬品の売上増加
- ・為替の影響

◆研究開発費率：9.5% (+1.1ポイント)

- ・92億円（前期：77億円）
- 開発パイプラインの進展（マイルストーン等）

◆販管費率(研究開発費除く)：32.0% (-3.5ポイント)

- ・312億円（前期：327億円）
- 主に一般経費の減少（特許等使用料の減少）
- 前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減等

■ 営業利益 4,631百万円 (+1,772百万円)

■ 当期純利益 5,722百万円 (+3,102百万円)

- ・主な特別利益：西日本配送センターの火災に関わる保険差益及び受取損害賠償金、投資有価証券売却益

貸借対照表の概要：旧杏林製薬

(単位：百万円)	22年3月期末		23年3月期末		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	121,796	76.1%	127,987	77.7%	+6,190
現金及び預金	17,535		10,881		
売掛金及び契約資産	36,690		40,955		
有価証券	500	—	0	—	—
棚卸資産	32,366		38,842		
その他	34,704		37,308		
固定資産	38,183	23.9%	36,774	22.3%	-1,409
有形固定資産	7,029		6,696		
無形固定資産	2,534	—	4,340	—	—
投資その他	28,620		25,736		
資産合計	159,980	100.0%	164,761	100.0%	+4,781
流動負債	28,543	17.8%	31,742	19.3%	+3,198
買掛金	11,746		13,703		
その他流動負債	16,796	—	18,038	—	—
固定負債	12,204	7.6%	11,468	7.0%	-735
負債合計	40,747	25.5%	43,210	26.2%	+2,463
株主資本	113,052	70.7%	115,953	70.4%	+2,900
評価・換算差額等	6,179	3.9%	5,597	3.4%	-582
純資産合計	119,232	74.5%	121,550	73.8%	+2,318
負債及び純資産合計	159,980	100.0%	164,761	100.0%	+4,781

<当期のポイント>

(対前期末)

■ 流動資産：6,190百万円増

- ・ 現金及び預金の減少 (-6,654百万円)
- ・ 売掛金及び契約資産の増加 (+4,265百万円)
- ・ 有価証券の減少 (-500百万円)
- ・ 棚卸資産の増加 (+6,476百万円)
- ・ その他の増加 (+2,603百万円)

■ 固定資産：1,409百万円減

- ・ 有形固定資産の減少 (-332百万円)
- ・ 無形固定資産の増加 (+1,806百万円)
- ・ 投資その他の減少 (-2,883百万円)

■ 流動負債：3,198百万円増

- ・ 買掛金の増加 (+1,956百万円)
- ・ その他の増加 (+1,242百万円)

■ 固定負債：735百万円減

主な業績項目の推移：旧杏林製薬

(単位：百万円)	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期 (予想)
売上高	99,736	96,336	89,674	92,010	97,526	100,000
(海外売上)	(613)	(1,260)	(793)	(834)	(112)	(400)
売上原価	50,443	47,339	44,922	48,736	52,479	—
(売上原価率)	(50.6%)	(49.1%)	(50.1%)	(53.0%)	(53.8%)	—
販売費及び一般管理費	43,905	44,675	41,190	40,413	40,415	—
(販管費率)	(44.0%)	(46.4%)	(45.9%)	(43.9%)	(41.4%)	—
うち研究開発費	9,569	10,038	8,719	7,695	9,233	8,400
(研究開発費率)	(9.6%)	(10.4%)	(9.7%)	(8.4%)	(9.5%)	(8.4%)
営業利益	5,387	4,321	3,561	2,859	4,631	6,100
(営業利益率)	(5.4%)	(4.5%)	(4.0%)	(3.1%)	(4.7%)	(6.1%)
経常利益	6,121	5,340	4,546	3,781	5,727	6,800
(経常利益率)	(6.1%)	(5.5%)	(5.1%)	(4.1%)	(5.9%)	(6.8%)
当期純利益	4,389	3,996	4,814	2,620	5,722	50,900
(当期純利益率)	(4.4%)	(4.1%)	(5.4%)	(2.8%)	(5.9%)	(50.9%)
一株当たり利益	59.10円	53.82円	64.82円	35.28円	77.06円	888.14円
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	—
総資産	161,986	160,570	156,628	159,980	164,761	—
株主資本	112,464	112,525	113,848	113,052	115,953	—
純資産	121,320	119,405	120,420	119,232	121,550	—
一株当たり純資産	1,633.55円	1,607.77円	1,621.43円	1,605.43円	1,636.65円	—
自己資本利益率	3.5%	3.3%	4.0%	2.2%	4.8%	—
自己資本比率	74.9%	74.4%	76.9%	74.5%	73.8%	—
人員	1,567人	1,502人	1,471人	1,441人	1,364人	—
設備投資	599	441	732	627	505	1,000
減価償却費	1,183	1,337	1,391	1,461	1,608	2,400

※2023年4月1日付で当社の完全子会社である旧杏林製薬株式会社を吸収合併しました。2023年3月期までは、吸収合併前の子会社である旧杏林製薬株式会社の数値であり、2024年3月期予想は吸収合併後の当社の数値となっております